九州地方整備局の事業進捗等について （河川事業）

事業名 （箇所名）	実施箇所	事業期間等	総事業費（億円） 上段：前回評価時 下段：現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
遠賀川直轄河川改修事業	福岡県北九州市、直方市、飯塚市、田川市、中間市、宮若市、嘉麻市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、桂川町、筑前町、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、福智町、赤村	平成19年度から概ね30年間 平成19年度から概ね30年間	約844 約844	・想定はん濫区域内の人口は、ほぼ横ばいで推移している ・平成26年6月に「小竹町移住定住すみよか計画」が策定され、更なる企業の進出、定住人口の増加等が期待される ・河川事業の推進等を目的とした流域自治体で構成される「遠賀川改修期成同盟会」から要望書が提出されるなど、治水事業の推進を望む声が大きい	・飯塚穂波地区（飯塚市）の河道掘削及び橋梁架替、学頭菰田地区（飯塚市）、直方地区（直方市）、太郎丸地区（飯塚市）の内水対策（排水機場増設等）を実施済 ・本川中下流部のネックとなっていた中間堰については、平成21年度より特定構造物改築事業として着手し、平成30年度に事業が完了 ・遠賀川直轄河川改修事業は、全体事業費の約60%（H30年度末時点）が進捗している	・本川中下流部において、整備計画目標流量（日出橋地点3,800m3/s）に対して、河積が不足している箇所の河道掘削や堤防の高さや幅が不足している箇所の築堤整備を実施 ・犬鳴川において、H21年7月洪水でHWLを超過し浸水被害が生じたため、堤防整備を実施 ・彦山川において、H24年7月、H29年7月洪水でHWLを超過し浸水被害が生じたため、河道掘削や堤防整備を実施 ・本川中下流部において、H30年7月洪水でHWLを超過し浸水被害が生じたため、河道掘削や堰の改築等を実施する予定	・現計画(河川整備計画)については、地形的な制約条件、地域社会への影響、環境への影響、実現性及び経済性等を踏まえ、有識者や地域住民の意見を伺い、策定したものである ・河川改修等の当面実施予定の事業については、その手法、施設等は妥当なものと考えているが、将来における社会・経済、自然環境、河道の状況等の変化や新たな知見・技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直す可能性もある ・河道掘削による発生土については、堤防腹付けなどに有効活用するなどし、処分費等の縮減に取り組んでいる ・施工時においては、新技術・新工法を用いて施工性の向上、コスト縮減を図っている
山国川直轄河川改修事業	福岡県築上郡吉富町、上毛町、大分県中津市、日田市、宇佐市	平成25年から概ね30年間 平成25年から概ね30年間	約211 約211	・想定氾濫区域内の人口の推移は、ほぼ横ばいである。 ・平成28年4月に東九州自動車道が全線開通した。 ・流域内で地域高規格道路（中津日田道路）が整備中であり、アクセス性の向上による地域産業の活性化が期待される。 ・流域には、代表的な観光地「名勝耶馬溪」があり、平成29年4月に耶馬溪が日本遺産に認定されたことで、今後、観光客の増加が見込まれる。 ・地域住民や流域市町からも治水対策を望む声は大きい。	・平成24年7月3日洪水と同規模の洪水を安全に流下させるため、河道掘削や堤防整備を実施している。 ・中流区間においては、平成24年7月3日洪水と同規模の洪水による床上浸水被害を防止するため、平成25年度より床上浸水対策特別緊急事業にて河道掘削や堤防整備を実施。平成30年6月に事業が完了したところである。	・下流区間は、平成24年7月3日洪水と同規模の洪水を安全に流下させるため、河道掘削や堤防整備の流下能力向上対策を実施	・事業実施にあたっては、樋管における無動力開閉ゲートの採用、現地発生材の有効利用、広幅鋼矢板等の新技術・新工法の積極的活用、河川CIMの導入などにより、一層のコスト縮減に努める ・直轄河川改修事業は、平成24年の洪水の再度災害防止を目的として実施しており、その計画は、地形的な制約条件、地域社会への影響、環境への影響、実現性及び経済性等を踏まえ、有識者・地域住民の意見を反映したうえで実施しているものである ・事業については、その手法、施設等は妥当なものと考えているが、将来における社会・経済、自然環境、河道の状況等の変化や新たな知見・技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直す可能性もある

九州地方整備局の事業進捗等について（河川事業）

事業名 （箇所名）	実施箇所	事業期間等	総事業費（億円） 上段：前回評価時 下段：現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
大分川直轄河川改修事業	大分県大分市、由布市	平成18年から概ね30年間 平成18年から概ね30年間	約224 約224	・想定氾濫区域内の人口の推移は、ほぼ横ばい。 ・大分駅周辺総合整備事業によって、大規模な開発が行われている。 ・今後も周辺地域を含めた広域的な開発や発展が期待される。 ・地域より河川事業の推進への強い要望が寄せられている。	・横瀬・国分地区において河道掘削を実施中。 ・賀来・中島地区において、平成5年9月洪水と同規模洪水による浸水被害の防止するため築堤・河道掘削を実施し平成31年3月に完成したところである。 ・危機管理型ハード対策を実施中。	・当面の対策（概ね5～7年）では、流下能力が著しく低く浸水被害が発生した大分川等について、築堤及び河道掘削等による河川改修を実施する。 ・当面整備完了後、水系全体で河川整備計画の目標安全度を目指して本川大分川の下流から順次河道掘削・築堤等の河川改修を進めていく。	・現計画（河川整備計画）については、地形的な制約条件、地域社会への影響、環境への影響、実現性及び経済性等を踏まえ、有識者や地域住民の意見を反映した上で策定したものであり、当面実施予定の事業については、その手法、施設等は妥当なものと考えている。なお、将来における社会・経済、自然環境、河道の状況等の変化や新たな知見・技術の進捗等により、必要に応じて適宜見直す可能性もある。 ・河道掘削による発生土については、一般公募による民間事業者への土砂提供を実施し、処分費等の縮減に取り組んでいる。 ・施工時においては、新技術・新工法を用いて施工性の向上、コスト縮減を図っている。
大野川直轄河川改修事業	大分県大分市	平成27年から概ね20年 平成27年から概ね20年	約102 約102	・想定氾濫区域内の人口は、ほぼ横ばい。 ・河口部の工業立地に加え、東九州自動車道のインターチェンジや国道197号バイパスが建設され、左岸松岡地区にはスポーツ公園や大型商業施設等があり、今後更に地域の発展が期待される。 ・地域より河川事業推進への強い要望が寄せられている。	・利光地区において築堤を平成31年3月に完成したところである。 ・一ノ州地区において堤防耐震対策を実施中。 ・大津留地区において河床低下対策を実施中。	【当面実施する整備の内容（今後概ね5～7ヵ年）】 ・水衝部等局所的な深掘れにより河川構造物へ影響がある区間の対策を実施する。 ・既存堤防において浸透及び耐震に対する安全性が不足している区間の対策等を実施する。	・河川整備計画については、地形的な制約条件、地域社会への影響、環境への影響、実現性及び経済性等を踏まえ、有識者や地域住民意見を伺い、策定したものである。 ・河川改修等の当面実施予定の事業については、その手法、施設等は妥当なものと考えているが、将来における社会・経済、自然環境、河道の状況等の変化や新たな知見・技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直す可能性もある。 ・事業実施にあたっては、河道掘削土を築堤盛土材料に再利用するなどコスト縮減に取り組んでいる。 ・また、構造物設計におけるコスト縮減及び施工における新技術・新工法の積極的活用により着実なコスト縮減に図る。